自分にできることを

絵本の読み聞かせボランティア

おおはら　やすこ
大原　慈子さん

子どもたちとのふれあいを通して、人としての基本を伝えたい。毎月、絵本の読み聞かせボランティアとして活動されている大原慈子（やすこ）さんからお話を伺いました。

仕事一筋で

社長秘書になるのが夢でした。その夢を叶えるため知識はもちろんですが語学力を身につけるために海外留学もしました。帰国後、東京の会社に就職し、始めは英文タイピストとして、その後は念願の社長秘書としてバリバリ働きました。俗にいうキャリアウーマンだったんです。仕事一筋の生活でしたが将来のことを考えたとき、「自然環境の良いところで暮らしたい」と思い、平成10年に当別町に移住してからも10年以上仕事を続けました。

なにができるのか

退職を目前にしたとき、自分の進むべき道はなんだろうと考えるようになりました。「私になにができるのか」と自分なりに整理をして出した結論は、「将来を担う子どもたちのためにボランティア活動をしよう」ということ。そのために、まずは子どもを理解しなくてはいけないと考え、イギリス発祥の「チャイルドマインダー」という資格を取得しました。この資格は0歳から12歳の子どもを年齢に応じて1名から4名まで保育対応できる資格です。ボランティア活動の情報を探していたある日、子育てに関する講演会に参加していました。そこで「絵本の読み聞かせボランティア募集」のチラシを見つけ、すぐに連絡をしました。

伝えたいこと

読み聞かせを始めて今年で3年目になりました。絵本の楽しさを伝えることはもちろんですが、実はもう一つ子どもたちに伝えたいことがあります。それは「おはよう、ありがとう、ごめんなさい」などの挨拶がしっかりとできるようになって欲しいということです。人と人のつながりは挨拶からはじまります。このことは私自身、長年の社長秘書の経験からも感じています。その基礎をしっかりと子どものころから身に付けていくことが大切だと思うので、読み聞かせを始める前は必ず挨拶から始めます。近所付き合いが希薄化しているなかで、地域が子どもを見守り育てる、古き良きものが失われないようにしたいという思いもあり、この読み聞かせボランティア活動を通じて挨拶の大切さを伝えています。

子どもから学ぶ

笑顔の子どもを見ると心が安らぎます。これまでたくさんの子どもと接してきましたが、私から伝えることより逆に子どもから学ぶことの方がたくさんありました。何か物事を行うときに「こうしなければならない」という一方的な考え方になりがちで、その考えに反するとつい否定してしまう。そうではなく、人それぞれに個性があり自分の固定概念で決めつけてはいけないと子どもとの関わりを通して改めて気づかされました。これからも人と人との関わりを大切にしながら絵本の読み聞かせを続けていきたいと思います。

「毎日が勉強です。何事も自然体で行うように心がけています」と話していた大原さん。今後も絵本の読み聞かせ、よろしくお願いします！

（11月8日取材）